# 本日のテーマ「ちょっと昔にタイムスリップ」

実施日：2019年11月29日

1　**「ぼくらの七日間戦争」**
宗田理／著　1985年　角川書店　【SNソ】

この作品は1985年に文庫書下ろしで出版され、1988年に宮沢りえさん主演で映画にされました。大人になって再読したとき、子どもの頃の視点からだいぶ変わっていたことに気がつき、時の流れを感じました。

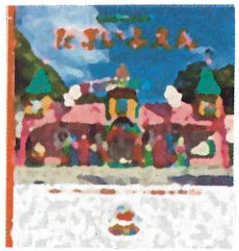
2　**「売り声図鑑１～３」**
宮田章司／文　瀬知エリカ／絵　市川寛明／監修
2018～2019年　絵本塾出版　【384】

タイムトリップできるなら、私は江戸時代に行ってみたいです。260年あまりの長い間、大きな戦がなかったのは世界でも珍しいとか。そんな江戸時代は、売りたい人がお客さんを探して売っていたため様々な売り声があったようです。著者は日本でただ1人の売り声漫談家。児童書なので絵も大きくてわかりやすいです。

3　**「蒲生邸事件」**
宮部みゆき／著　1996年　毎日新聞社　【N三】

ホテル火災のさなか、孝史が緊急避難先として連れて行かれたのは、昭和11年。2・26事件勃発直前の蒲生邸でした。なぜ、この時代に飛んだのか？　自決した蒲生大将は本当に自殺だったのか？　SF要素とミステリーが同時に楽しめます。

4　**「開園６０周年記念だざいふえんフォトグラフ 1957-2017」**
2018年　だざいふ遊園地　【L689】




太宰府天満宮境内にある遊園地。
それが、このだざいふ遊園地です。
開園当初からの写真が掲載されていますよ。
どの時のだざいふ遊園地に行ったことがありますか？

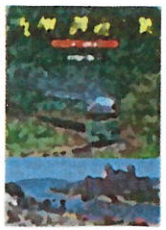
5　**「おばちゃんたちのいるところ」**
松田青子／著　2016年　中央公論新社　【Nマ】

17話の連作短編集です。各作品には、歌舞伎や落語、民話などモチーフがあります。八百屋お七の生まれ変わりの女性が、ゆかりの寺で御朱印書きのバイトをしていたり、四屋敷のお菊が雑貨屋をしていたり…ゆる～い幽霊のおばちゃんたちに笑ってしまいます!!

6　**「へたも絵のうち」**
熊谷守一／著　2000年　平凡社　【723.1】

今のように物が豊かではなかった時代の素朴な生活風景が、逆に違った意味で豊かに感じます。熊谷守一さんのお人柄が絵にも表われていて温かみを感じる本です。

7　**「九州・鉄道の旅」**
栗原隆司／著　2003年　海鳥社　【L686.2】



通勤で乗っていた電車。旅行で乗った電車。
おひとりで読んでも懐しいですが、ご家族、ご友人と読むと思い出話に花が咲きますよ。

8　**「テレビ探偵」**
小路幸也／著　2018年　KADOKAWA　【Nシ】

昭和感満載の土曜日のあの番組が、土台になっている小説です。あの番組の裏では、こんな風になっていたのかなあと読み進めながら、想像できます。同じ作者の「東京バンドワゴン」シリーズも懐かしくて、あたたかい気持ちになるのでオススメです。

9　**「七瀬ふたたび」**
筒井康隆／著　2002年　新潮社　【SNツ】

投稿箱のアンケートからの一冊。
「高校生の頃によく読んでいて、まさに私の青春です。」
初版は1970年代。『家族八景』『エディプスの恋人』と共に七瀬三部作とされ、何度も映像化されています。

10　**「象の旅　長崎から江戸へ」**
石坂昌三／著　1992年　新潮社　【210.5】

投稿箱のアンケートより。「この時代この場面、自宅近くを象が歩いた歴史は、私にとってうれしい事実のひとつです。」徳川吉宗の時代、ベトナムからきた象が長崎街道を歩いて江戸まで旅した物語。